

藝 林
GEI RIN

第五十八卷 第一号
平成二十一年四月

嘉辰令月
歡無極干
秋万歳樂
未央

君か代は千世に
八千世に
さゝれ石の
巖となりて
苔のむす
まで

磯摩の人で、江戸初期に水戸藩に仕えた書家である貞幸筆海まことひつるかいの筆になる「百人一首」の末尾に記されたもの。語句に異向があるが、「和漢朗詠集」巻下の祝にみえる二首である。末尾に「右一軸燈火燐筆也」「寛文歳次庚戌首夏」「筆海書」とあり、落款がみえる。筆海五十八歳の筆である。